



InnerSource & InnerSource Commons

Yuki Hattori
@InnerSource Commons Japan

Agenda

InnerSource とは
InnerSource を実践するポイント
InnerSource の事例
InnerSource Commons Community

InnerSource Commons

- ・ InnerSource Commonsは、InnerSourceの実践者の世界最大のコミュニティです。組織という枠の中でソフトウェア開発にオープンソースのベストプラクティスを活用するInnerSourceに関するナレッジの創出と共有に特化しています。
- ・ 2015年に設立されたInnerSource Commonsは、現在、500以上の企業、学術機関、政府機関から1500人以上の個人をサポートし、つないでいます。インナーソースコモンズ財団は2020年2月19日に法人化され、501(c)(3)の公益法人となりました。



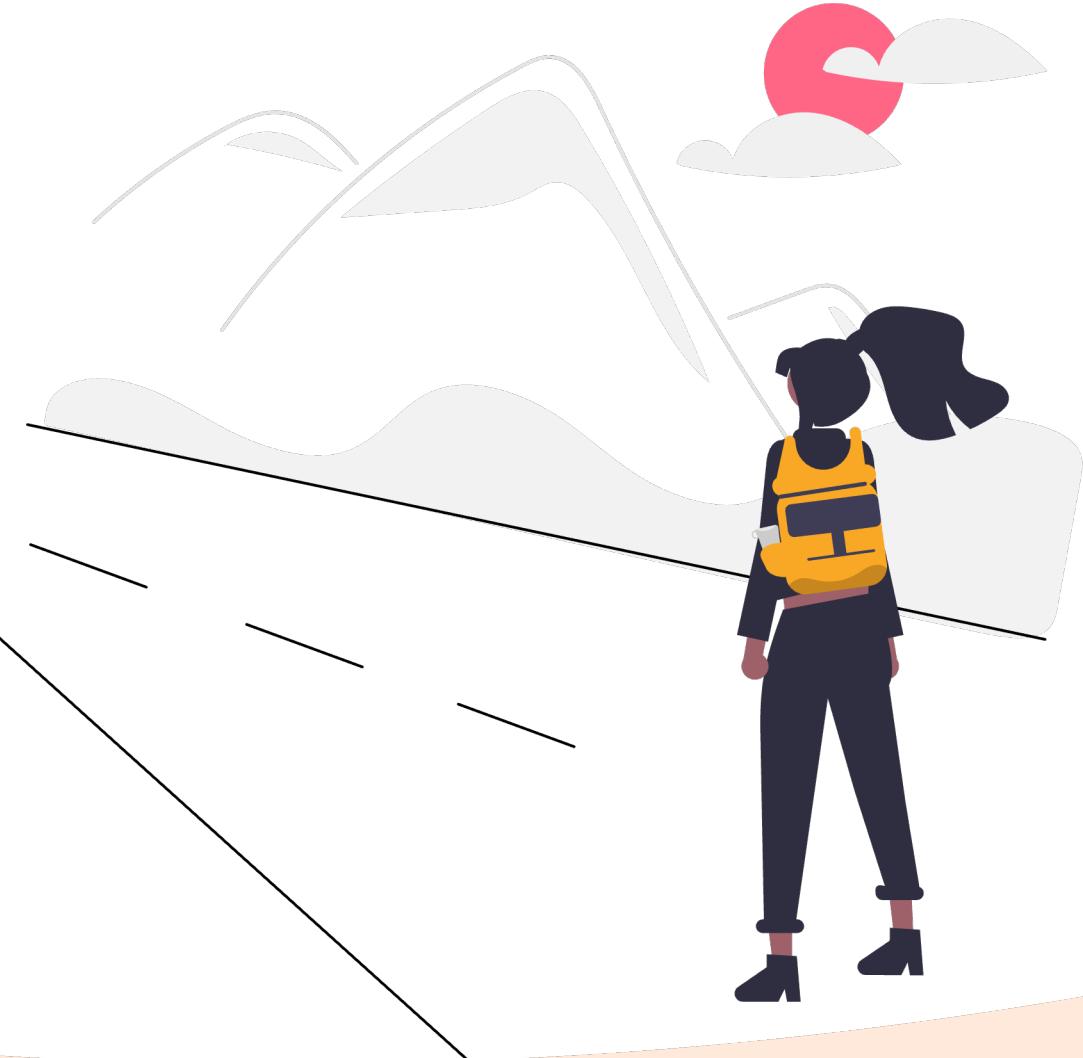
InnerSource is ...

“Applying the concepts and lessons of successful open source ecosystems to how a company develops software internally”

“成功したオープンソース・エコシステムのコンセプトと学びを
企業が社内でソフトウェアを開発する方法に適用する”

InnerSourceは、企業文化や企業の制限を尊重しつつ、
オープンソースに似た内部のシェアリングエコノミー
に向けて文化的に変革していく旅です。

開発効率を上げ、より良い顧客満足度と成果に
つなげることが目的です。



InnerSource の活用で何が変わるか



コラボレーションの増加

オープンソースコミュニティと同じプロセスとプラクティスを使用して、組織内でチームが共同作業する



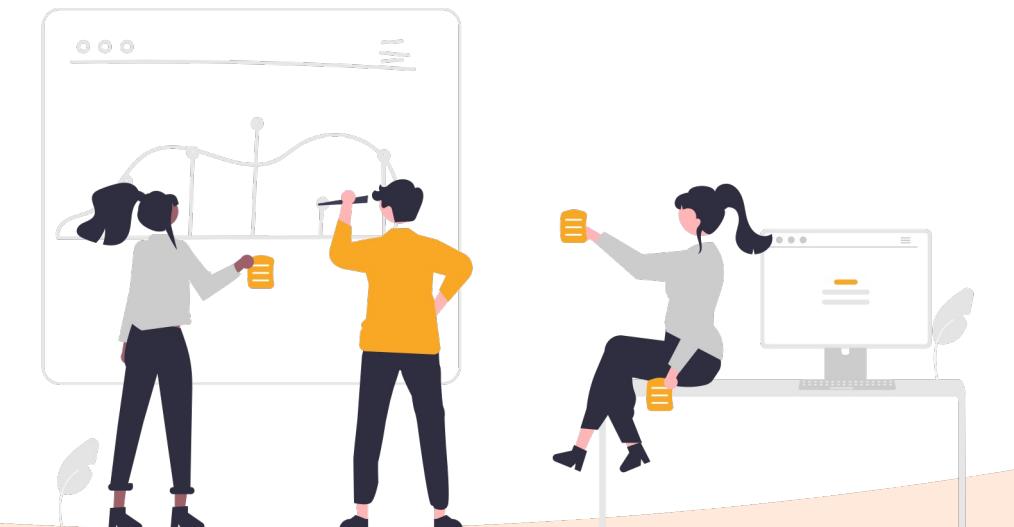
サイロを壊す

チーム間でのコラボレーションの簡素化、知識の共有、コードの再利用の改善、安全なワークフロー



開発者の満足度向上

InnerSource と Open Source のプラクティスを活用することで、開発者の満足度が高まり、興味のあるプロジェクトに取り組む



InnerSource を実現する 4 ポイント



発見可能性

パートナーチームがコードベース、ドキュメント、およびその他の関連資料をすべて検索し、事前のドメイン知識なしでプロジェクトを探索すること



実行可能性

パートナーチームがソースコードを迅速かつ簡単にコンパイルおよび実行できる、または別プロジェクトの一部としてソースコードを簡単に使用できること。カプセル化されており、即実行できる。



貢献性

パートナーチームが問題を簡単に報告し、質問し、新しい機能を提案し、障壁なく前向きな方法でコミットをアップストリームすること



継続性

すべてのチームがコードをメンテナンスし続けること



InnerSource をドライブするとは

以下である

- ✓ コラボレーションを妨げたり、遅らせる障壁を取り除く
- ✓ オープン/協力的な行動を奨励する
- ✓ 客観的尺度で現状を評価し、伝える
- ✓ ステータスと進捗状況測定のためのデータを提供する
- ✓ 文化的変化を促進する

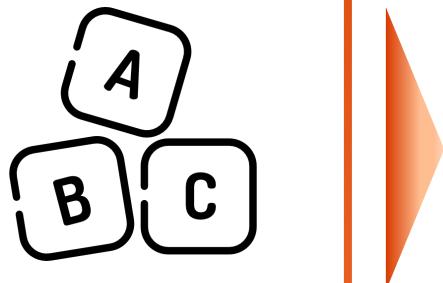
以下でない

- ✓ 人の働き方を決める
- ✓ 新しい統制プロセスの追加
- ✓ 活動を抑制する
- ✓ コードベースのキュレーション
- ✓ 新しいツールを自前で構築
- ✓ 新しいタイプのリポジトリを作成

InnerSource で運用が変わる

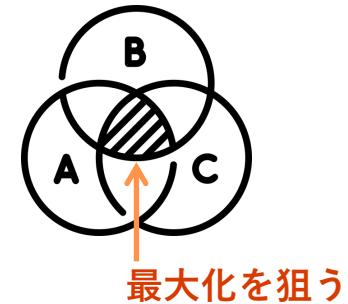
かつての運用

- ✓ 特定の目的のための、複雑なソリューション
- ✓ 自分のコード
- ✓ 車輪の再発明
- ✓ 製品 = コード
- ✓ 貢献 = 個人の気晴らし



インナーソースの狙い

- ✓ よりシンプルで汎用的なモジュール式のコンポーネント
- ✓ 私たちのコード
- ✓ 再利用し構築
- ✓ 製品 != コード
- ✓ 貢献 = コラボレーションとコミュニティへの投資



プラクティス

InnerSource プログラムオフィス



役割

InnerSourceプログラムオフィスは、InnerSourceを有効にするための手段と環境を提供します。プログラムオフィスは開発を促進しますが、開発部門やゲートキーパーではありません。



タスク

- InnerSource 方針の共有
- 指導の実施
- インセンティブモデルの開発
- システムのアドバイザリー
- 支援活動を組織化する
- 適切なツーリングの確保



* InnerSource Governance Office とも呼ばれることもあります。

事例

Case 1: Microsoft

1ES チームが GitHub を活用して組織変革を実施し、
規模拡大に伴う官僚制組織化や、部門間の競争激化や政治による
コラボレーションの低下、モノリシックで、大きくなりすぎた
ソースコードを解消しました。

“エンジニアやプロダクトチームにとって、生産性を推進する
システムに取り組むことよりも、重要なことはありません。”

- Satya Nadella



* 1ESチーム (One Engineering System) = マイクロソフトの開発基盤チーム

Community

InnerSource Commons Japan Community



勉強会・ミートアップ

- ・ InnerSource やコード共有に関する内容について勉強会を開催しています
- ・ その他、OSS の翻訳プロジェクトなどにて得られた学びを共有します



翻訳と普及

- ・ InnerSource のコンテンツや、InnerSource Commons のコンテンツを翻訳します
- ・ InnerSource の考え方の普及活動を行います



スポットライティング

- ・ InnerSource 活動の実践者の活動にスポットライトを当てます
- ・ プラクティスを共有し、相互の成功のための情報交換を行います

* InnerSource Governance Office とも呼ばれることもあります。

InnerSource Commons Japan Community

In Progress

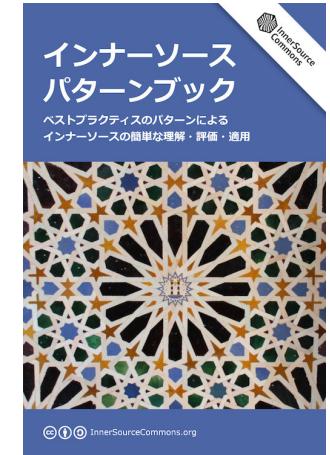
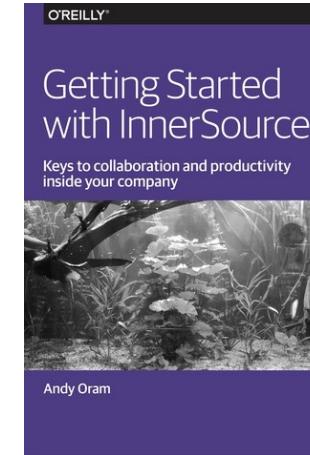
Getting Started with InnerSource

オライリーの InnerSource 入門書

Done

InnerSource Patterns

InnerSource のプラクティスをまとめたパターンブック



Future

Understanding the InnerSource Checklist

オライリーの InnerSource 初級者向け書籍

Future

勉強会

8月末に実施予定

